農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とっとり農業戦略課 研究･普及推進室　まとめ
平成28年12月13日　現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	水稲	･現地では、収量は例年に比べ早生で高く中生で低い状況。 ･1等米比率は例年に比べ早生はやや良、中生は平年並程度であった（作況指数102、10月末現在1等米比率：「コシヒカリ」48%、「ひとめぼれ」48%、「きぬむすめ」85%）。 ･農業試験場の作況田によると玄米タンパクが高めで、その傾向は中生品種ほど顕著である。	･本年の作柄状況と次年度の技術対策の整理を行い、産米改良協会研修会等を通じて、現場へ周知する。
	大豆	･農業試験場の「サチユタカ」及び「タマホマレ」では、収量はやや低くなり、播種の早晩による品質に差は見られない。「サチユタカ」では湿害に由来する生育量不足が見られたが大粒傾向、「タマホマレ」は湿害が見られず小粒傾向であった。 ･現地では、干ばつ後の長雨により全体に小粒傾向で、収量がやや低いとの報告がある。また、長雨の影響により収穫が遅れ、遅いものほど品質の低下が大きくなった。	･農業試験場の試験成績等を参考に、次年度の技術対策を策定する。
	麦	･農業試験場では生育が良好で、湿害は見られていない。 ･11月下旬までに、現地のほ種が概ね終了した。生育は概ね良好であるが、一部で湿害により生育が遅れている地区がある。	･農業試験場ほ場や現地ほ場の経過観察に基づき、技術情報等を通じて排水等の対策を指導する。
果樹	なし	･せん定作業が進みつつある。 ･落葉は平年並みであった。	[共通] ･病害虫の越冬量を減らすため、罹病した枝葉の処分を励行する。 ･棚栽培の果樹は、大まかな枝の間引きを早めに行うとともに、モウソウ竹などの突き上げ柱を入れて、棚面の積雪による損壊を防ぐ。 ･カキの亜主枝など、大きな枝にも突き上げをして、積雪による折損を防ぐ。 ･かん水や防除の配管などは水抜きし、凍結による破損を防ぐ。
	かき	･本年の出荷は、概ね終了した。 ･富有は、炭疽病やヘタスキ果が多く、収量が前年より少ない見込みである。	
	ぶどう	･粗せん定が概ね終了した。	
野菜	白ネギ	〈秋冬ネギ〉 ･長雨により、収穫作業の遅れや細物が多い状況となっている。 〈春ネギ〉 ･概ね順調であるが、ほ場によっては生育遅れ、または過肥大などバラツキがある。 〈病害虫〉 ･先月末から引き続きさび病、べと病などの発生は見られない。	〈秋冬ネギ〉 ･適期収穫に努める。 〈春ネギ〉 ･生育に応じた土寄せを行い、冬季の倒伏を防止する。 〈病害虫〉 ･小菌核腐敗病等の防除を徹底する。 〈その他〉 ･積雪地では畝の紐張りなど葉折れ防止対策を実施する。
	ブロッコリー	･収穫作業が続いてるが長雨による定植の遅れ、花芽分化の遅れなどの影響があり、出荷量は例年の30%程度で修正計画よりも少ない出荷となっている。品種別では、‘おはよう’の出荷時期だが‘ピクセル’、‘サマードーム’の収穫も続いている。 ･防除の徹底により、黒すす病など病害虫の発生は少ない。	･生育遅れにより、在ほ期間が長くなるが、品質低下とならないよう適期収穫する。
	ラッキョウ	〈生育〉 ･種球の母球芽が少なかったこと、一部植え付けが遅かった影響等で、葉枚数および分球数が昨年比7～8割に留まっている。 〈病害虫〉 ･赤枯病は1筆あたりの発病株数は減っており、温湯消毒の効果が見られる。白色疫病の発生は少ない。	･引き続き白色疫病の予防防除を徹底するとともに、赤枯病発生株、ウイルス罹病株の抜き取りを徹底する。

花き	シンテッポウユリ	・ハウス抑制作型の収穫は概ね終了したが、収穫残が見られる。草丈が高くなり過ぎ、曲がりで出荷できないものもある。 ・累計の出荷本数は195,000本。週3回集荷で日量は2,500本程度となっている。	・出荷不能なものもあり、今後の出荷本数は不透明であるが、年内に10,000～20,000本程度の収穫が見込まれ、累計本数は200,000本以上になる見込みである。
	ストック	・東部地区は彼岸出荷作型が中心で、草丈は40cm～50cm程度。出蕾は見られない。一部で菌核病の発生が見られる。 ・中部地区はスタンダードが日量10,000～15,000本、スプレーは8,000本程度で、若干出荷量が増加してきた。スタンダードは計画対比10%程度、スプレーは同15%程度でいずれも大幅に遅れている。累計出荷本数はスタンダード160,000本、スプレーは100,000本。可能な限り電照を行い開花促進を図っているが、大幅な前進化は難しい状況。 ・西部地区はスタンダード中心で、出荷量は計画対比20%の90,000本。日量は3,000～4, 000本でやや増加してきている。8月末～9月上旬播種のものは草丈が低い状況で出蕾している。	・中部地区の出荷は1月に増加する見込みであるが、今後の天候に大きく左右されると考えられる。 ・西部地区は12月下旬にかけて出荷量が増える見込み。1月下旬～2月上旬に出荷ピークになると予測しているが、低温期であるため集中出荷とはならない見込み。 ・菌核病の防除を徹底すること。 ・今後の天候に留意し、凍害対策を図ること。
飼料作物	イタリアン	・中部地区では天候不順のため、播種作業が遅れ気味であったが、12月1日にイタリアンライグラス播種が終了した。	・水田裏作では、湿害に注意する。 ・積雪期に入るため、生育の早いものでは雪ぐされ現象の発生に注意する。